

平成 27 年 CPD 記念講演会

主催 一般社団法人群馬県技術士会 共催 公益社団法人日本技術士会群馬県支部

群馬県地域社会の発展に寄与することを目的に、群馬県支部と協力のもと（一社）群馬県技術士会を本年 8 月 3 日に登記・設立し、加藤洋を初代会長に選任しました。群馬県をはじめ県関係機関等の方々からご指導を頂き、地域に貢献する技術士集団として地域の活性化に寄与すべく活動を開始しました。新たに発足した群馬県技術士会の趣旨を皆様に広くお知らせするために開催した講演会について報告します。

日時：平成 27 年 11 月 27 日(金) 14:15～15:45

場所：群馬産業技術センター

演題：「みなかみ町のバイオマス都市構想」

講師：竹林 政雄 様 (NPO バイオマス産業社会ネットワーク 代表)

講演内容：

なぜ今バイオマスが注目されるのか。それは地球温暖化防止対策、循環型社会の形成、リサイクル法への対応、エネルギー安全保障、エネルギー安定供給、地域振興策、新たな戦略産業の育成等である。バイオマスの可能性は持続可能で再生可能、大量に賦存、人の手による栽培植林が可能、エネルギーにも物質資源のいずれも可能、廃棄処理後も有害物質がほとんど無排出、炭酸ガスの吸収、固定、排出面で優位、などである。人類が消費するエネルギーが地球表面の運動エネルギーに近づくほど異常気象が発生する。温室効果を減らすには自然エネルギーをもっと活用しつつ大幅な省エネルギーを実施することである。バイオマスには多くのエネルギー利用技術があり、各種の産業分野がある。バイオマス産業都市構想では、富山県射水市やみやま市及び群馬県上野村の事例を挙げ、みなかみ町構想について述べ、森林を有する町村の活性化を図るため、森林のエネルギー活用について考える非常に有益な講演であった。

